

令和4年度 静岡県耐震診断補強相談士
更新者用資料理解度チェックシート

氏名 ()

『更新者用資料』を読んでいただき、以下の設問に御回答ください。(※すべて必須回答)

設問1 耐震基準について、以下の《 》に当てはまる年月日は、次の選択肢①～④のどれか？

県が進めている木造住宅の耐震化事業プロジェクト「TOUKAI-0」で耐震診断・耐震補強の対象となるのは、《 》以前に建てられた旧耐震基準の木造住宅。

- ① 昭和36年5月31日 ② 昭和46年5月31日
③ 昭和56年4月31日 ④ 昭和56年5月31日

設問2 避難所生活について、以下の《 》に当てはまる理由は、次の選択肢①～④のどれか？

被災後の避難所生活の大変さを住宅所有者にイメージしてもらうことは、耐震化の誘導につながると考えられます。また、昨今のコロナ禍では、避難所生活による感染リスクが懸念され、在宅避難の重要性が高まっている。こうした背景から、従来の「命を守るため」だけでなく、昨今においては「《 》」にも、自宅の耐震化を進める必要があり、住み慣れた自宅での避難生活を目指すことも重要である。

- ① 経済的コストを削減するため ② 避難所での感染リスクを回避するため
③ 避難所で集団生活するため ④ 自宅の全壊を防ぐため

設問3 「TOUKAI-0」事業について、以下の《 》に当てはまる数字は？

県では、地震後に避難所へ行くことなく、自宅での生活を継続できるよう、従来より高い耐震性を確保する耐震補強工事に対して、15万円増額する制度の拡充を行いました。主な補助要件は、「補強前の上部構造評点《 》未満」「補強後の上部構造評点《 》以上」「家具固定（寝室、居間等）の実施」「事業PRへの協力」です。

設問4 住宅の耐震化の現状について、以下の《 》に当てはまるのは、次の選択肢①～④のどれか？

静岡県では、平成25年から平成30年までに、「耐震性なし」の住宅が、約24万戸から約15万戸に減少し、平成30年の住宅の耐震化率は《 》となりました。資金面や高齢等を理由に耐震補強に踏み出せない方が多く残っていることなどの課題があります。

- ① 83.9% ② 85.0% ③ 89.3% ④ 93.8%

設問5 「TOUKAI-0」事業について、以下の《 》に当てはまる数字は？

現在、木造住宅耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」の総仕上げを図っており、「わが家の専門家診断事業」は令和《 》年度末、「木造住宅の耐震改修事業（補強計画一体型）」等のその他の木造住宅耐震化に係る補助事業は、令和《 》年度末で終了します。

設問は以上です。